

多角的な視点をもった行政マンに

瀬谷区建築課 平成10年入庁

石原従道

そこで、地区計画や建築協定の
ような法に基づく建築のルー
ルが定められたり、まちづくり
協議が行われている。

瀬谷区では今年度、区の自主
事業として、「瀬谷区まちなみ
景観ガイドラインの策定」とい
う事業を行っている。景観づく
りの面から魅力ある街づくりを
していこうという趣旨であり、
家を新築や改築する際に建主さ
んにお願ひする内容などについ
て、議論が行われている。

「人は景観をどう評価するの
か」という内容で研究をしてい
たこともあつて、おもしろい仕
事だが、現実の景観形成は、
「何がどうなれば良い景観にな
るのか?」というよりは、「誰
が何をすれば良い景観ができる
のか?」ということの方が大き
な問題なのだということを学ん
だ。

私は、瀬谷区建築課にいる。
日々の仕事は、建築物の確認
申請の審査、開発や宅地造成の
許可などの許認可関係の仕事と、
建築相談に関する対応など、市
民サービスの仕事がある。どち
らかと言えば、前者が仕事の大部分
を占めるのだが、「良好な
住環境をつくる」という観点か
らすると、法律や条例の制限は
十分とはいえない。「南の家が
大きくて家に日が入らない」、
「隣の家の軒先が敷地の境界ぎ
りぎりである」といった相談は
よくある内容である。

交流会で、他の自治体の方とお
話できる機会があつたりと、多
くの方と知り合うことができた
のは、大きな収穫であつた。ま
た、公園などの施設の運営や管
理に、地域の方が非常に努力さ
れていることを知つた。

こんなように一年間を過ごし
てきて感じたことは、「行政の
仕事は生活の全般にわたつてい
るため、自分の担当している仕
事はほんの一部分にすぎない」
ということだ。

しかしながら、自分の担当の
仕事ははじめにやるが、組織内
の他の仕事には興味がないとい
う人が多いように思う。

今のところ、様々な視点を身
につけることや自分の仕事を相
対化して見ることは各人にまか
されているようだが、例えば、
組織横断的なプロジェクトチ
ームをいくつかつくり、週のうち
一日はチームで行動するといつ
たことも必要だろう。

自分の仕事に責任を持つて実
行していくプロ意識と、様々な
視点を持つ行政マンとしての自
覚、その両方を身につけていき
たい。

あとがき

市内の就労相談、就労支援の
窓口の状況を聞いてまわつた。
中区寿町にある「神奈川人材銀
行」は、管理職や専門技術職等
の中高齢者を対象とした再就職
相談の窓口である。この間、大
手企業の四十五歳から五十五歳
の年齢層の「まさかのリストラ」
にあつた人たちの相談が多くなつ
ている、という。される方もす
る方も極めて深刻な事態で、こ
の長引く不況に疲れ切つている
という担当者のお話であつた。

また、横浜市女性フォーラムの
再就職講座には、経済的な理由
で働きたい、という五十歳代の
女性の応募が多く、この一年間
で様変わりを見せているという
ことである。市の労働情報セン
ターにも、パートタイム就労の
相談が急増し、対応に追われて
いた。

各相談窓口に起きている現象
は、日本経済の長期にわたる不
況を確実に、逼迫して感じさせ
るものだが、一方で、このよう
な中から、働くことの多様な価
値観や形態が、そして、新しい
経済活動が生み出されていく、
と考えられないだろうか。大型
店の出店に反対することでは住
民の納得を得られずに「福祉の
まちづくり」という新しいコン
セプトで打ち出した二俣川銀座

商店街、古着のリサイクルを市
民の感性にフィットする形で事
業化した「ファイバーリサイク
ルネットワーク」、港南区内に
は、家事、介護サービスの市民
事業は四つもあり、それぞれに
特性をもつた活動をしている。
お母さん代行業として青葉区か
ら出発したオフィスポケットマ
マは全国にネットワークを張り
めぐらしている。小さい知恵と
工夫が新しい切り口で経済活動
として自立していくストーリー
は、その担い手のモティベージ
ョンが世の中の必要に対応してい
るかどうか、という極めてシン
プルな原理にあると思われる。
このような経済活動と就労の場
面が数多く存在することが、二
十一世紀の横浜の活力を生み出
すのではなからうか。

△中川▽

「調査季報」は職員が自由に
意見を発表し討論する行政研
究誌です。「自主研究レポート」
への投稿をお待ちしています。
応募される方は、事前に研
究の概要をA4紙三枚以内に
まとめて企画局政策部調査課
までお送りください。

FAX 六六三—四六一三
お問い合わせは、
電話 六七—二〇二九

●第134号／一九九八年六月

特集・総合的・地域開発のあり方

座談会・成熟社会の地域開発

大村謙二郎・岸 由二・澤田誠二

竹内佐和子・北村圭一・土井一成・南 学

新しい地域開発を考える際の視点と注意すべき諸点

高橋潤二

事例から見る総合的・地域開発の概念と課題

①IBAエムシャーパーク(ドイツ)のコンセプトと運営方法 永松 栄

②流域からのまちづくりーマージョ川流域キャンペーンと鶴見川の流域活動 大澤浩一

③大阪湾ベイエリアの環境保全創造に向けた取り組みの現状と展望 杉原五郎

成熟社会における総合的な地域開発の視点ー横浜市の課題からー

①平成九年度政策立案基礎調査「成熟社会の新しい地域開発」から 編集部

②鶴見川総合治水対策の変遷と現況 建設省京浜工事事務所

③流域から考える水環境の保全・創造 野村宜彦・山下雅雪

④成熟社会における地域産業活性化策について 長谷川政男

⑤成熟社会の農的市民像 江成卓史

⑥地域生活圏とその住民像に即した施策立案のためにー区における地域調査のあり方を考えるー 松岡文和

⑦横浜「丘の手」における住民からの地域まちづくり展望 福富洋一郎

調査&政策研究／平成九年度横浜市民アンケート調査から 石原雅久

新鮮力／市民に鍛えられる日々 田並 静

●第135号／一九九八年九月

特集・京浜臨海部再編整備

I世界に開かれた海上産業都市づくり

市長インタビュー・産業活性化は福祉基盤を支える柱

高秀秀信

座談会・京浜臨海部の課題とこれからの可能性

小島謙一・岩宮 浩・内藤 理

京浜臨海部と浅野絵一郎 先人たちの遺産 金近忠彦・横山 悠・南 学

産業集積と活性化戦略 東 秀紀

①日本技術を支える産業集積と活性化 拠点的母工場としての取り組み 柏木孝之

②京浜臨海部の現況データ 山田孝一

21世紀の新産業の創出

①横浜における地域科学技術政策の展開 山本 治・塩田 進

②これからのインキュベータのあり方 星野 敏

II京浜臨海部再編整備に向けての実践

京浜地域ブランドデザインの視点 土井一成

地域再生への取り組み 京浜臨海部再編整備マスタープランを中心に 鈴木健一・前川 稔・小金井健至・山形珠実

産学連携を中心とする研究開発拠点の実現 金子延康・山田孝一・菅原真一郎

市民に開かれた京浜臨海部 長谷川政男・関戸義仁

①鶴見区における臨海部の現状と課題 橋本 勝

②神奈川区臨海部の特色とまちづくりの課題 松山弘子

自主研究レポート／地方分権の憲法上の課題について 南 有里

水道行政をモデルとして 榑崎和雄

新鮮力／すべては制度を「知る」ことから

●第136号／一九九八年十二月

特集・創造的コンベンション都市への道

都市にとってコンベンションとは何か

①コンベンションの本質を再考察する 猪口邦子

②都市戦略としてのコンベンションを考える 渡辺 厚

創造的コンベンション都市をめざして 久代雅之・渡辺政一

魅力ある都市の条件

①都市に充足、完成はありえない 木幡和枝

②インタビュアー・伝説が街をつくる 村上 実

③インタビュアー・心を伝える「物語都市横浜」の創造 野村万之丞

コンベンション・ビューローの機能と役割 森岡朋子

市民とコンベンション

①横濱JAZZプロムナード うめもと 實

②コンベンションと野毛という町 福田 豊

③東海道という財産を持つ保土ヶ谷のまちづくり 近藤博昭

事例から見るコンベンションの効果と今後

①フランス映画祭横浜 芳賀宏江

②国際エイズ会議 市川孝史・魚本一司

③ヨコハマ都市デザインフォーラム 国吉直行

自主研究レポート／連載① 安政の開港、平成の邂逅 村田和義

連載①／市営バス七十年を迎えて 市営バス七十年の歴史を考察 大保光興

新鮮力／未来を創る 越路浩也

調査季報

137

1999年3月

編集・発行

横浜市企画局政策部調査課

〒231-0017 横浜市中区港町1-1

TEL.045-671-2029

1999年3月25日発行

横浜市広報印刷物登録

第100131号

類別・分類 A-BA011

デザイン サウスピア

印刷 東邦印刷株式会社

ISSN0387-8899

この印刷物は再生紙（古紙混入率70%）を使用しています